

『令和6年度介護ロボット導入補助事業』でインカムと眠りスキャンを導入しました！

特別養護老人ホーム六尾の郷では、令和6年度大阪府補助事業で『インカム』と『眠りスキャン』を導入しました。今まで職員同士の連携はハンディーナース（PHS）を利用していましたが、インカムを導入しその利便性は想像以上のものでした。

導入後のメリットを職員にアンケート調査を実施したところ、そのメリットは次の通りでした。限られた職員数の中で、利用者様を介護・看護するにあたりそのメリットは計り知れないものです。

インカムを導入して良かったこと

- 朝礼に出られない時にでも、業務をしながら朝礼内容が聞ける。
- 情報共有（通常業務、事故、入所者急変時）が一斉に出来る。
- 介護職員がすぐに看護職員と連携・相談が可能。小さな異変でも迅速に看護職員と相談でき、利用者処遇の質が向上されている。（今まで館内を探すのに時間がかかった、。）
- 眠りスキャンの離床センサーを全職員が共有できるので、すぐに対応が出来る。今まではPHSを持っている職員のみ対応しており、担当者の精神的負担の軽減につながった。
- 眠りスキャンの離床センサーが聞こえるので、安心できる。
- 別の階の利用者センサーが聞こえるので、夜間帯などすぐに応援に行ける。



眠りスキャンを導入して良かったこと

- パソコンで利用者のベッド上での状態をリアルタイムで確認することができるので、職員の精神的な負担軽減につながった。
- 夜間帯にモニターにて起き上がりの表示がされ訪室。利用者がベッドのリモコンを誤って触り、90度近くギャジアップしていたのを、早期発見し未然に事故を防ぐことが出来た。



眠りスキャンの今後の活用について

- 利用者一人一人の夜間の睡眠状態のデータをとり、その方に合わせた排泄交換の実施。
- 睡眠状態のデータから、覚醒時間を割り出しトイレ誘導の実施。利用者が自己にてトイレに行かれ転倒するような事故を未然に防ぐ。
- モニターを活用し、巡回時間を1時間から2時間に変更し安眠の確保と職員の業務負担の軽減。
- 看護業務の負担が軽減される。バイタル測定もセンサーのデータを自動で取り込み、業務時間の短縮になっています。
- 睡眠状況や呼吸数、心拍数がリアルタイムで把握できるので体調不良の早期発見や職員の心理的負担が軽減される。

